

氏 名	木 島 康 文
授 与 し た 学 位	博 士
専 攻 分 野 の 名 称	医 学
学 位 授 与 番 号	博甲第 4450 号
学 位 授 与 の 日 付	平成 23 年 12 月 31 日
学 位 授 与 の 要 件	医歯薬学総合研究科生体制御科学専攻 (学位規則第 4 条第 1 項該当)

学 位 論 文 題 目	Catheter closure of atrial septal defect in patients with cryptogenic stroke: initial experience in Japan (奇異性脳塞栓を合併した心房中隔欠損症に対するカテーテル閉鎖術：日本における初期成績)
-------------	--

論 文 審 査 委 員	教授 成瀬 恵治 教授 王 英正 准教授 五藤 恵次
-------------	----------------------------

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

近年、心房内右左短絡が奇異性脳塞栓症の原因となりうることが報告されているが、本邦においては心房内短絡に対するカテーテル閉鎖術の成績は報告されていない。

我々は、奇異性脳塞栓症合併症例に対する心房内右左短絡のカテーテル閉鎖術の安全性と脳塞栓症再発の 2 次予防としての有効性を評価するために 13 症例について検討を行った。全 13 症例において安静時もしくは負荷により心房内右左短絡がコントラスト経食道心エコー図により確認され、全例で Amplatzer Septal Occluder を用いてカテーテル閉鎖術が試みられた。1 例で閉鎖栓の脱落をきたしスネアで回収が必要となったものの、最終的には全 13 症例で閉鎖栓は至適位置に留置された。術後 12 か月でのコントラスト経食道心エコー図検査により、11 例（85%）で心房内右左短絡の完全閉鎖が確認された。また、術後平均 30 か月間の平均観察期間内において、塞栓症の再発イベントを認めなかった。

心房内右左短絡に対するカテーテル閉鎖術は安全に施行することが可能であり、脳血管イベントの再発予防に寄与できる可能性が示唆された。

論 文 審 査 結 果 の 要 旨

心房内右左短絡が奇異性脳塞栓症の原因となりうることが報告されているが、本邦においては心房内短絡に対するカテーテル閉鎖術の成績は報告されていない。本研究では奇異性脳塞栓症合併症例に対する心房内右左短絡のカテーテル閉鎖術の安全性と脳塞栓症再発の 2 次予防としての有効性を評価するために 13 症例について検討を行った。全 13 症例において安静時もしくは負荷により心房内右左短絡がコントラスト経食道心エコー図により確認され、全例で Amplatzer Septal Occluder を用いてカテーテル閉鎖術が試みられた。1 例で閉鎖栓の脱落をきたしスネアで回収が必要となったものの、最終的には全 13 症例で閉鎖栓は至適位置に留置された。術後 12 か月でのコントラスト経食道心エコー図検査により、11 例（85%）で心房内右左短絡の完全閉鎖が確認された。また、術後平均 30 か月間の平均観察期間内において、塞栓症の再発イベントを認めなかった。心房内右左短絡に対するカテーテル閉鎖術は安全に施行することが可能であり、脳血管イベントの再発予防に寄与できる可能性を示した価値ある業績である。

よって、本研究者は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。